

## 外国人生徒受け入れの試み ―その3―

国際理解教育推進委員会

### I. はじめに

平成9年度入学生、平成10年度入学生に続き、今年度平成12年度入学生が卒業をした。これで本校から3人目の外国人生徒が卒業したことになる（平成11年度生の入学者はなし）。この入学生は過去2名の外国人生徒とは異なり、本校入学時の日本語能力が非常に高かったため、カリキュラムは3年間一般生徒と同じものを適用した。また、日本語の取り出し授業も行われなかった。外国人生徒受け入れの経緯、受け入れに向けての基本的なカリキュラム等については1999年および2000年度本校研究紀要を参照していただきたい。

### II. 平成12年度入学生について

#### 1. 入試について

##### <平成12年度外国人生徒募集要項>

##### 募集人員

第1学年 若干名（女子のみ）

##### 出願資格

以下の条件1、2、3の全てを満たす者。

1. 来日3年以内の外国籍の者。原則として、保護者の日本国内勤務に伴なって来日し、入国時に1年以上の正規の滞在ビザを取得しており、今後もその延長が可能である者。
2. 次の①、②のいずれかを満たす者。
  - ① 外国において学校教育における9年の課程を修了した者、または平成12年3月に修了見込みの者。
  - ② 学校教育法第47条に規定する中学校またはこれに準ずる学校を卒業した者、または平成12年3月に卒業する見込みの者。
3. 保護者と同居し、そこを生活の本拠としている者。  
保護者とは、父または母、父母のない場合は保護者として責任のとれる人をいいます。

(通学時間について)

通学に要する時間は、乗換え時間を含めて片道70分までが望ましいと本校では考えます。長時間の通学は、学校生活に支障をきたす恐れがあります。また、本校の夏期の登校時刻は午前8時なので、これに間に合う必要があります。

## 出願手順

### 1. 連絡

出願を決めた段階で、できるだけ早く、本校に電話またはファックスでご連絡ください。受検生・保護者との事前相談の日時を決めさせていただきます。

### 2. 事前相談

本校へ、1でお知らせしました日時に、ご来校ください。受検生および保護者の事前相談を行います。その際、下記の①、②を持参し、担当者にご提出ください。

① 志願者データ用紙（本校所定の用紙。日本語または英語で、どちらか1枚に記入してください。）

#### ※ 志願者データ用紙の記入項目

- ・志願者氏名、生年月日、国籍、住所
- ・保護者氏名、年齢、国籍、住所、職業
- ・家族状況
- ・志願者来日年月日
- ・志願者学歴（所属学校名、在学期間、最終在籍校については所在地と卒業・修了、あるいは卒業・修了見込みの年月）
- ・中学校で学習した教科の内容（言語、数学、理科、社会〔地理・歴史〕、芸術、体育、家庭、その他）
- ・日本語学習歴（場所、期間、能力）

② 現地で在学していた学校の成績証明書またはそれに準ずるもの。（日本語・英語以外の言語で書かれている場合は、英語の成績証明書も付けてください。）

### 3. 出願手続

#### ① 出願期間

2000年1月18日(火)、19日(水)の2日間。

午前9時から正午までと、午後1時から午後3時まで。

#### ② 出願方法

出願書類は、原則として本校に直接持参してください。

#### ③ 出願書類等

##### ① 入学願書

受検票および受検者写真票の写真は、3×4 cmで顔は正面向き、最近3ヶ月以内に写したものをそれぞれに貼ってください。

\*日本語または英語で記入してください。

② 調査書・健康診断書

i) 国内の中学校を卒業した者、または卒業する見込みの者は、本校所定の用紙を使用してください。

ii) i) 以外の者は、健康診断書のみを保健所等で作成してもらってください。

\*これらの用紙は厳封のうえ、本校校長宛の親展としてください。

③ 自己紹介書（本校所定の用紙）

※ 自己紹介書の記入項目（記入にあたっては、日本語、英語、第一、第二言語のいずれを使っても構わない。また、下記の質問には英文が添えられている。）

- ・あなたが現地で通っていた学校について説明してください。
- ・あなたの得意な科目や好きな科目について理由を含めて書いてください。
- ・学校や地域社会におけるこれまでのあなたの役割や活動について書いてください。
- ・あなたの趣味や特技について書いてください。
- ・自分の性格について書いてください。
- ・あなたの家族を紹介してください。
- ・現在の社会情勢や世界の動向について関心があることを自分の意見を含めて書いてください。
- ・あなたの人生にとって大切なことは何ですか。
- ・あなたの将来の希望は何ですか。
- ・本校に期待することを書いてください。

④ 外国人登録済み証明書

⑤ 入学検定料 9,800円

郵便局で9,800円の「普通郵便為替証書」を作成してもらい、その証書を出願書類と共に持参してください。なお、指定受取人住所氏名欄には、「お茶の水女子大学」とだけ記入してください。

選抜日時

2000年2月15日(火) 午前8時30分より入室。 午前9時開始。

(受検票、筆記用具、昼食、上履きを持参してください。)

注) 保護者の方は、午後1時までにおいでください。

選抜方法

- ・作文（受検者が主として使用していた言語による作文）

- ・ 学習歴、学習内容に応じたペーパーテストおよびインタビュー
- ・ 面接（本人および保護者）
- ・ 書類審査

#### 合格発表

2000年2月18日(金) 午後3時

附属高等学校正面玄関前に掲示します。合格した方は、当日の午後5時までに事務窓口にて、関係書類を受け取ってください。

#### 合格者に対する入学手続

1. 日時 2000年2月22日(火)、23日(水) 午後1時～午後4時
2. 場所 お茶の水女子大学附属高等学校事務室

注) 期間内に手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとします。

#### 入学予定者に対する説明会

1. 日時 2000年3月3日(金) 午前8時40分より受付、午前9時10分説明開始。
2. 場所 お茶の水女子大学講堂

#### 備考

入学金 55,000円（入学手続時に納入）

年間授業料 108,000円（入学手続時、前期分54,000円を納入）

諸費用（年間） 170,600円（内、90,500円を3月末日までに振込納入）

注) 諸費用の金額は、平成11年度のものであります。（平成12年度は変更の可能性ががあります。）

## 2. 志願者状況

平成12年度外国人生徒入試志願者（2名）

	1	2
出身地	中国・遼寧省	中国・北京市
年月日	1983年1月	1984年8月
受験時年齢（在日年月）	17歳	15歳
現地就学状況	中学校卒業	中学入学後4ヶ月まで
在日就学状況	市立中学校3年に在籍	区立中学校3年に在籍
日本語学習歴 （時間／週 期間）	公立中学校 （週2時間、1年6ヶ月） 市の日本語教室	公立小学校 （100時間、2ヶ月）

### 3. 入試内容

#### 1. 選抜方法

- ・作文（受検生が主として使用していた言語による作文）
- ・学習歴、学習内容に応じた筆記試験および口頭試問（国語、社会、数学、理科、英語の5教科）
- ・面接
- ・書類審査

#### 2. 入試内容

各教科の入試内容は、事前に志願者から提出された〈志願者データ用紙〉の「中学校で学習した教科の内容」に基づいて作成される。さらに、志願者データ用紙だけでは情報が不十分なため、現地の中学校で使用されていた教科書を志願者等を通じて適宜取り寄せ、参考にされる。

試験実施にあたり、状況に応じて受検生が母語を使えるように配慮した。筆記試験問題は、事前に依頼した通訳（中国語1名）によって翻訳された。また、同様に教科の口頭試問や面接の際には通訳が同席した。

平成9年度入試では、受検生一人一人の学習歴や学習内容に合わせて出題内容を変えるなど配慮をしたが、平成12年度入試では受検生2名の学習歴の差異はないものと判断し、全教科共通問題で実施された。

##### ○5教科試験

- ・国語…筆記試験（漢字の読み書き、文法・語彙の選択問題、日本語作文）
- ・社会…筆記試験
- ・数学…筆記試験
- ・理科…口頭試問と筆記試験
- ・英語…聞き取り、作文、口頭試問

##### ○母語による作文

出題されたテーマに従って母語で書かれる。書かれたものは後で通訳によって翻訳される。

##### ○面接

本人との面接では、本校を志望した理由、高校生活に対する抱負、卒業後の進路などについて質問された。また、別室では保護者との面接が行われ、本人と同様、志望理由や将来の進路、在留資格や期間などについて確認された。

#### 3. 入試結果

合否の判定は、事前に提出された書類、教科試験、面接を通じて総合的に行われ、平成12年度は、受検番号2の生徒が合格した。学力、日本語能力共に非常に高い生徒であった。判定の際、このような能力の高い生徒を、外国人生徒として受け入れる意義があるのかという議論が行われた。「日本語力は問わない」、「本人の意欲および出身国での学習状況を重視する」、つまり潜在的能力の

高い生徒を入学させ、3年間で足りない日本語力や教科の支援をどのように行っていくかという試みにこそ外国人生徒入試の意義があると考えていたからである。様々な議論が行われたが、結局、この生徒を入学させるに至った理由は、在日就学年数（日本の中学校における在籍年数）が全くなかった平成9年度入学生、1年1ヶ月であった平成10年度生、2年11ヶ月であった平成12年度生とそれぞれ異なった経歴を持つ3パターンの生徒を比較研究するためであった。

#### 4. 各科目における担当教官のコメント及び評価

各担当教官に、①外国人生徒に対して配慮したこと、②外国人生徒の授業への取り組み方、③評価の方法、④総合的な所見についてコメントをしてもらった。掲載の順序は教科ごとである。本校へ入学した時点の日本語能力は非常に高く、一般生徒と同じカリキュラムを履修するのにほとんど問題がないと判断されたため、過去の外国人生徒用に用意した特別なカリキュラムや日本語の取り出し授業は3年間行われなかった。評価に関して、ダブルスタンダードを設けた教科はなく、家庭科や異文化理解で多少学習内容による配慮があった程度である。各担当教官のコメントから、その能力の高さが窺われる。

● 国語Ⅰ（1年・5単位）、現代文（3年・2単位） 国語科 渡辺 康英

- ① 特に配慮の必要を感じなかった。
- ② 良好。
- ③ 特に差をつけなかった。
- ④ 日本語能力は高く、外国人生徒としての意識を持って接したことはなかった。

● 古典Ⅰ（2年・2単位） 国語科 荻原 万紀子

- ① 特になし。
- ② 真面目に熱心に取り組み、成績も優秀であった。
- ③ 他の生徒と同じ。
- ④ 外国人生徒ということの特を意識せずに授業ができた。逆に、中国語もできない生徒なので、漢詩を読んでもらうこともできなかった。

● 古文（1年） 国語科 吉本 智子

- ① 最初の頃、文章を書かせると、助詞の使い方に不適切なところが若干見られたが、特に問題となるほどではなく、特別な指導は必要なかった。
- ② 文語文法にまじめに取り組み、動詞の活用から助動詞までよく習得した。また、古典文学に興味を持ち、参考資料にもよく目を通し、作品の理解を深めるよう努力していた。
- ③ 特に考慮することなく、他の生徒と同様に評価した。
- ④ 言語的な問題はなく、感性が豊かで、作品の細部まで鑑賞する力を持っている。

● 選択古典Ⅱ（3年・3単位）

- ① 特になし。
- ② 平安朝文学、特に『伊勢物語』『源氏物語』に興味を持ち、自分でいろいろな資料を読んだり、演劇や映画を鑑賞したりして、歴史的な背景に関する知識も豊富で、積極的に取り組んでいた。
- ③ 他の生徒と同様に評価した。
- ④ 文法・単語の知識が確実で、古典的な世界への興味も深い。元来持っている感性の豊かさに、研究熱心さが加わり、優れた読解・鑑賞力を身につけた。

● 日本史A（3年・2単位）

社会科 高橋 通泰

- ① 今までの外国人生徒に対して行った配慮は一切行わなかった。
- ② 非常に真面目で積極的であった。
- ③ 一般生徒と同じ。
- ④ 日本人とほとんど変わらない生徒を外国人生徒として入学させることは、研究上あまり効果がない。

● 地理A（1年・2単位）

社会科 菊池 三千世

- ① 日本語能力、背景知識等問題なく、何の配慮もしなかった。
- ② 大変真面目で優秀であった。
- ③ 一般生徒と同じ。
- ④ 一般生徒と比べても優秀であった。（外国人という意識がなさすぎたのが問題かもしれない。）

● 現代社会（2年・2単位）

社会科 石出 みどり、菊池 三千世

- ① 特になし。
- ② 熱心で真面目に努力した。
- ③ 一般生徒と同じ。
- ④ 熱心かつ真面目に勉学に励んだ。優秀である。

● 現代社会（3年・2単位）

社会科 村野 光則

- ① 特になし。
- ② 他の日本人生徒と同じで、真面目に意欲的に取り組んでいた。
- ③ 他の生徒と同じ（テスト、提出物）。
- ④ 言葉の面での問題もなく、授業内容は十分理解できたと思われる。

● 世界史A（2年・2単位）、選択世界史B（3年・3単位）

社会科 石出 みどり

- ① 中国の歴史の部分については、どのように学んだか、どのように考えるか等授業中にたずねた。しかし、特に内容のある答えはなかった。（むしろ一般受験で入学した中国人生徒の方が

よく語った)

- ② 熱心かつ真面目に積極的に取り組んでいた。日本語での苦労はあまりなかったのではない  
か。
- ③ 一般生徒と同じ。
- ④ 優秀である。

● 数学A (1年・1単位)

数学科 室岡 和彦

- ① レポートの課題の内容を詳しく見た。
- ② 日本人生徒と変わらず。
- ③ 同上。
- ④ 日本人生徒と変わることがないことが良くもあり、悪くもあった。

● 数学B (2年・2単位)

数学科 沖山 義光

- ① 数学に対しては、大変興味も意欲もあり、特に配慮しないでできた。
- ② 積極的で、他の生徒よりも問題意識が高い。一般の生徒にも良い影響を与えていた。
- ③ 一般生と同じ。
- ④ 自分の進路をしっかりと持っていて、そのため学習態度も積極的であった。数学の学力も高  
いと思われる。

● 数学I (1年・4単位)、数学II (2年・3単位)、数学A (3年・2単位)、数学B (3年・  
2単位)

数学科 茶園 幸子

- ① はじめは問題文の言葉がわかるか等少し気にしたが、ほとんどわかっていたので、その後は  
特別な配慮必要なし。
- ② 真面目に真剣に取り組んだ。優秀で、1年生1学期のテストでは、クラスに2・3人しかい  
ない100点を取った。数学は得意だと思われる。
- ③ 一般と同じ。
- ④ 優秀。

● 化学I A (1年・2単位)

理科 石井 朋子

- ① 特別になし。
- ② 真面目に取り組んでいた。
- ③ 一般生徒と同様に評価。
- ④ 日本語の読む・書くもまったく不自由なく、また教科に対する知識も理解力も十分にあり、  
日本人生徒と比べてもまったく劣るところはなく、優秀な成績を修めた。

● 生物I A (2年・2単位)

理科 大戸 吉和

- ① 特になし。
- ② 成績から考えて、特に2・3学期は熱心に取り組んでいたと思われる。



- ③ 一般生と全く同じ。
- ④ 外国人枠で入学させる意味があったかどうか、生物の授業をみた限りでは疑問。(1年の時に相当努力したのかもしれないが)

● 物理 I A (2年・2単位) 理科 村井 利行

- ① 特別に配慮したことはない。その必要がなかった。
- ② 熱心であった。生徒の実験の時など、他の生徒と仲良く楽しく活動していた。
- ③ 他の生徒と同じ基準で行った。定期テスト(4回)とレポート(5回)で評価を行った。
- ④ 物理に対して特別に興味・関心を持っていたようには感じられなかったが、授業態度は真面目であり、成績も良かった。大変好感の持てる生徒であった。

● 体育 (1年・3単位、2年・3単位、3年・3単位)

保健体育科 古山 泉(文責)、海士部 伸子

- ① 特別になし。授業態度は、下手な日本人より優秀だった。
- ② 良好。
- ③ 区別・差別なし。必要なかった。
- ④ 外国人生徒という意識を全く感じないで接することができた。周囲の生徒も同様だったと思う。彼女の存在が、授業に好影響も悪影響も与えなかったはずだ。

● 保健 (1年・1単位、2年・1単位) 保健体育科 海士部 伸子

- ① 特別になし。
- ② 大変熱心に取り組み、優秀な成績を修めた。
- ③ 他の生徒と同じ。
- ④ 特に外国人生徒と意識して授業を行うことはなかった。

● 書道 I・II (1年・2単位、2年・2単位) 芸術科 川口 美智子

- ① 日本語が堪能だったので、日本人生徒と同じレベルで指導した。
- ② 真面目な学習態度で楽しみながら書道を学んでいた。心のこもった丁寧な作品が印象に残っている。
- ③ 最初から日本語が大変上手だったので特別扱いはしなかった。日本人の生徒と全く同じ評価方法をとった。
- ④ 外国人留学生の場合ほとんどが、言葉と書道の体験の不足から、レベルが落ちることが多いが、彼女の場合は日本人生徒に比べても、全く遜色なく良好であった。

● 英語 I (1年・4単位)、OCA (1年・1単位)、英語 II (2年・4単位)、ライティング (3年・2単位) 英語科 中津川 義浩

- ① 特別な配慮は一切せず、一般の生徒と全く同じ対処をした。
- ② 意欲的で、学習成果とともに他の生徒の模範となるものであった。

- ③ 一般の生徒と同じく、試験の成績を中心に評価した。
- ④ 外国人であることを他の生徒も教師も意識をすることがなかった。大変優れた生徒であった。

● 家庭一般（1年・2単位） 家庭科 田中 京子

- ① 初めは言葉のハンデを意識して、特に実習の手順などが理解できているかどうかチェックしつつ慎重に進めた。1ヶ月位たってからは、他の生徒とほとんど同じに扱った。
- ② とても熱心に取り組んだ。
- ③ 特に生活文化にかかわる学習では、自国の背景を考え、評価に配慮をした。他は他の生徒と同じ。
- ④ とても熱心に取り組んだ。彼女は中国の生活・文化に対して特に執着もしておらず、日本に同化している感じが強かった。

● 家庭一般（2年・2単位） 家庭科 田中 京子

- ① 生活文化（特に食生活文化）に関しては、特に外国人であることを意識して指導した。しかし、本人は特に外国人であることを意識していない様子だったので、途中からほとんど他の生徒と同じに扱った。
- ② とても熱心に取り組んだ。
- ③ 他の生徒と同じに扱った。
- ④ 熱心に取り組み、成績も良好であった。他の生徒も、彼女が外国人生徒であることをあまり意識していない様子であった。

● 異文化理解Ⅰ（1年・2単位） 英語科 木村 政子

- ① 自国の文化を積極的に自己発信できるように、中国と他国の文化比較を行うことができるよう授業内容に配慮した。
- ② 他の生徒たちに対して、非常に熱心に母文化についての説明を行うと同時に、自分がこの講座にいる意味をよく理解し、他の生徒たちの助けとなるような助言や解説を数多く行った。
- ③ 他の生徒たちとほぼ同じ。本人の日本語力は、難しい言葉は使えないが意志疎通は十分に図れるというレベルであったので、提出されたレポートなどについてはその点を多少は考慮したが、内容的には全く問題が無かった。
- ④ 1年間、自分が中国人であるということをしっかり意識して、日本人世界に容易に埋没することなく自己主張や自己発信を続けることができたと同時に、授業中、他の生徒たちに触発されて日本への理解もさらに増していったことが見て取れる。

● 異文化理解Ⅱ（2年・1単位） 英語科 木村 政子、保健体育科 海士部 伸子（文責）

- ① 1年次の①と同じ
- ② 自分が外国人生徒であるという自覚を持ち、中国の遊びや料理などを紹介する場面では、主

体的に積極的にリーダーシップを発揮した。

③ 他の生徒と同じ。

④ 日本人生徒たちに十分馴染みながらも、自分は中国人であるという自覚や自国の文化を大切に  
する気持ちを持って授業に取り組むことができた。

## 5. 教科支援について

平成9年度生が3年生になった時から、高大連携プロジェクトの一環として、本大学大学院の日本語教育コースの学生による教科及び母語保持支援補講が始まった（詳細については1999年度本校紀要を参照のこと）。平成12年度生に関して、日本語の取り出し授業は行われなかったが、教科・母語保持支援補講は高校1年生の時から、日本人の学生と外国人生徒の母語を話すことができる学生による  
チームティーチングの形で週1回120分行われた（平成12年度教育改善推進費補助金研究成果報告書「バイリンガル育成を目指した中・高・大、日本人院生、外国人院生のチームティーチングによる支援」を参照のこと）。本校から大学へ依頼した補講内容は、日本語の新聞記事を読み日本語で要約するというものであった。しかし、大学側は数回書かせた作文から、問題は日本語よりも母語（中国語）にあると判断し、1学期の早い段階から補講内容を日本語よりも母語保持や中国人としてのアイデンティティー確立支援に切り替えていった。この外国人生徒（以下Y・O）は、いまさらなぜ中国語の補講をする必要があるのかと疑問を持ったようだが、1年生の夏休みに中国へ帰国した際、祖母に中国語を認識してもらえなかったというショッキングな出来事に直面し、それ以来母語保持支援補講に意欲的に取り組むこととなった。結局、大学院生のスタッフ不足（本附属校、帰国子女への日本語支援補講も行っていたため）とY・Oが大学受験のための勉強に集中したいと希望したことで、この支援補講は2年生の秋頃に終了した。

## 6. 3年間を振り返っての一般生の感想～3年生対象アンケート集計結果から～

過去に本校を卒業した外国人生徒と同様に、今年度も一般生がどのようにY・Oや留学生と関わったかというアンケート調査を実施した。卒業間際の忙しい時期であったため、回収率はあまり思わしくなく94名/119名（79%）であった。

アンケートAでは、3年間を共に過ごしたY・Oとの関わりについて、Bでは2年次に受け入れた留学生3名（平成13年4月～14年1月）との関わりについて、Cでは他学年の留学生や外国人生徒との関わりについてそれぞれたずねた。

アンケートB、Cについて先に触れておく。留学生の受け入れに関してであるが、毎年必ず出てくる生徒たちの要望に答え、この学年が2年生の時には留学生を各クラスに在籍させるよう3名受け入れた。生徒たちは留学生が身近にいればそれだけ交流を持つ機会が増えると考えたようだが、実際には留学生を多く受け入れたことで、留学生同士がかたまってしまい、一般生にとってやや関わりにく

い雰囲気が出てしまった。1学期の終わり頃に、留学生間で頻繁に使用されていた英語を日本語に切り替えていくよう教官が促すこともあった。留学生の受け入れは、大方の一般生がその意義を見出しているが、満足度は、留学生との関わりの深さによると感じた。

次に3年間共に過ごしたY・Oに関してであるが、特に気になったことがある。それは、Y・Oが外国人生徒入試枠で入学した生徒であるということを3年間知らないで過ごした一般生が多かった、そのためY・Oという特定の個人との交友関係についてたずねたこのアンケートを問題視する生徒がかなりいたということである。

本校ではすでに2名（いずれも中国人）の外国人生徒を卒業させている。その際、やはり今年度と同じアンケートをとっているが、その時にはこのような生徒たちの反応は見られなかった。理由は、外国人生徒が本校へ入学した時の日本語能力の違いにあると考えられる。卒業した2名の外国人生徒は、入学前の在日就学年数が短かったため、入学時の日本語能力が一般生と同じ授業を受けるには不十分であり、カリキュラムは一般生と異なる外国人生徒用のものを適用した。また、入学から卒業までの3年間日本語の取り出し授業も行った。一般生からは容易に外国人生徒と認識することができたであろう。しかし、Y・Oの場合、日本の中学校に3年間通い、本人の猛烈な努力もあって、すでに入学時には一般生と同じカリキュラムで授業を受けるだけの日本語能力を十分に有していると判断された。したがって、外国人生徒として入学はしてきたが、一部の条件（外国人生徒の国際理解科目必修）を除いては一般生と何ら変わらない学校生活を送ることとなった。さらに特筆するなら、成績は大変優秀で3年間常に学年上位を維持した。このように卒業した2名の外国人生徒と比べると、入学当初からほとんど手のかからない生徒であったため、一般生はもちろん、教官側も一般生とほとんど変わらない対応をしてしまうことが多かった。この学年に一般受験で入学してきた中国人生徒が他に2名いたことも、Y・Oを外国人生徒と認識しづらくした要因と考える。結局、学校側はY・Oが母国と日本の掛け橋的役割を担っている外国人生徒であり、一般生は大いに異文化交流をして欲しいといった主旨説明を行う機会を逸してしまった。その結果、学校側がY・Oに期待した外国人生徒像と一般生がその生徒に求めた人物像に大きなズレが生じてしまった。

実践的研究の対象である外国人生徒として入学した以上、学校側はその生徒の存在を明確に位置付け、本人にもその自覚を持たせる必要があったのではないかと、今回のアンケートからも得られた反省点である。平成15年度には、第1・第2学年にそれぞれ外国人生徒が在籍することになる。外国人生徒に期待するのは、日本語や日本文化をしっかりと吸収しつつ、外国人であるという自負を持ち、異文化の発信源となり、日本人生徒と大いに刺激し合い、交流できる存在であってほしいということである。そのためには、今後どのような外国人生徒を入学させるべきかといった選抜基準や外国人生徒支援のあり方について、さらなる検討・研究を重ねていかなければならない。

以下に、アンケート及び集計結果を紹介する。

## アンケートの序文

3年生の皆さんへ

本校では国際色豊かな学校にしたいという構想の下、毎年留学生を受け入れています。さらに平成12年度の入試では外国人生徒を募集し、その結果、Y・Oさんと3年間一緒に学んできました。これらの試みについて皆さんの意見を伺い、本校の将来構想に活かしたいと思います。以下のアンケートにお答え下さい。(該当するものに○をつけてください)

### A：外国人生徒（Y・Oさん）について

Q1. あなたはY・Oさんと（3年間のいずれかの学年で）同じクラスでしたか。

- a. はい 54人 (57%)
- b. いいえ 40人 (43%) (本校では2年次進級時に一度だけクラス替えが行われる)

●はいと答えた（同じクラスに在籍した）生徒

Q2. 外国人生徒を受け入れることについて

- a. とても良い 54人中33人 (61%)  
普通の友人と変わらない。 どれも悪くない。 授業中に色々と知識を得ることができた。
- b. 良い 14人 (26%)  
異文化理解。 普通の友達として接することができた。
- c. 良くも悪くもない 7人 (13%)  
外国人生徒と知らなかった。 特別なことではないと思う。
- d. 悪い 0人 (0%)

Q3. Y・Oさんとあなたの関係について

- a. 生涯の友 54人中1人 (2%)  
とても親しくなれた。 他の友達と変わらないのに、こんなこと聞かないでほしい。  
趣味が合いすぎた。 将来のことや進路のことなど色々な話をした。
- b. とても親しくなれた 18人 (33%)  
外国人生徒と知らなかった。 知っていても仲はかわらなかったと思う。
- c. 時々話をした 31人 (57%)  
クラスが違ったので、キカイがあまりなかった。 一緒にラジオドラマを作った仲。  
外国人生徒とは全く知らずに友人関係を築いたので、あまり特定の個人との交友関係を書きたくない。
- d. あまり話さなかった 2人 (4%)  
ふつうにクラスメイトの関係。
- e. 全く話さなかった 0人 (0%)
- ※ 無回答 2人 (4%)

●いいえと答えた（同じクラスに在籍しなかった）生徒

Q 2. 外国人生徒を受け入れることについて

a. とても良い 40人中14人 (35%)

色々な人と友達になれる。友達を通じて世界が広がる。

b. 良い 13人 (33%)

異文化理解。普通の友達として接することができた。

色々な文化を学び、自分たちの文化を伝えることができた。外国人生徒と知らなかった。

外国人といることに違和感を感じない。

c. 良くも悪くもない 10人 (25%)

別に外国人だろうと日本人だろうと言葉さえ通じれば同じ。

あまりに普通で外国人と意識したことがなかった。

入れる学力がある人が受験できるのは当たり前だと思うのでよし悪しではない。

d. 悪い 0人 (0%)

※ 無回答 3人 (8%)

Q 3. Y・Oさんとあなたの関係について

a. 生涯の友 40人中0人 (0%)

b. とても親しくなれた 2人 (5%)

c. 時々話をした 12人 (30%)

d. あまり話さなかった 12人 (30%)

1度も同じクラスになれず、話す機会が少なくて残念。

e. 全く話さなかった 14人 (35%)

※ 無回答 0人 (0%)

Q 4. Y・Oさんと過ごして良かったと思う項目はどれですか（複数回答可）。具体的な内容を書いてください。

a. 授業 (回答数34)

異文化理解。肉まんを作った。ものすごく賢いと思った。

世界史の授業等で中国のことを知ることができた。英語の授業で中国語を披露してくれた。

風習について少し教わった。生の中国語が聞ける。音楽。漢文。

b. 学校行事 (回答数22)

文化祭（ミュージカル、ラジオドラマ）。外国人という意識はなかった。

ミュージカルを一緒にやって楽しかった。

修学旅行の感想文を読んで、中国的価値観が垣間見れた。話の中で文化の違いに気がついた。

c. クラブ活動 (回答数3)

華道部

d. 外国語で会話ができた (回答数0)

e. 学校外での付き合い (回答数4)

色々な所でよく遊んだ。カラオケで楽しめた(中国人だからというのは関係ない)。

共通の友人を通して遊んだ。

※ 無回答 (回答数16)

普通とまったく同じなので特に外国人生徒だからどうかという意識で接したことはなかった。

関わりがなかった。

◎ その他、上記項目以外で良かったと思うことがありましたら自由に書いてください。(人柄や生き方から学んだこと、考え方が変わったこと、相手国への理解が深まったこと、など) (回答数19)

異文化理解の授業を通じ色々わかった。勤勉。おちゃめ。

中国人はよく勉強する、頭がいい。

中国の歴史上の人物について、日本人の見方と中国人の見方が違うことを聞いて初めて知った。

実家におしかける予定を作った。

異文化理解の授業で色々中国文化を教えてもらっておもしろかった。

日本語がすごく上手だから、全然外国人という感じがなくて普通の日本人と同じように思えた。

Q 5. 外国人生徒と過ごした学校生活を振り返って、問題点や改善点があれば書いてください。

(回答数18)

特に外国人生徒という意識もなく接していたから特別に気をつかうこともなかった。(多数)

普通の友達だし、こんなアンケート取られるのが変な気分。

外国人を受け入れるのは当たり前だと思う。(多数)

外国人として接してきたわけではないので、こういうアンケートには答えられない。

外国人生徒だということをはじめて知った、かえって外国人ということと言わないほうがいい。

(多数)

日本語がうまくて、あまり苦勞をすることはなかった。

他にも外国人生徒(一般生徒)がいたので目立たなかった。

## B：留学生【Aさん（スイス）・Rさん（チリ）・Cさん（オーストラリア）】 について

### Q1. 留学生を受け入れることについて

a. とても良い 94人中54人 (57%)

他国の文化について紹介しあえたりする。

めったに話したり交流をもつことができない人と親しくなれる。

色々知れる。英語を使おうと思う。かわいかった。異文化体験ができた。

b. 良い 23人 (24%)

外国人の接し方がわかる。視野が広がる。お互いの刺激になる。

お互い語学の勉強になる。

c. 良くも悪くもない 14人 (15%)

国のことが良くわかる。受け入れる方、来る生徒の相性がある。

d. 悪い 1人 (1%)

学校に遊びにきていた感じ。

※ 無回答 2人 (2%)

一部のひととの交流があって、その他はあんまりであった。

留学生があまり学んでなさそうだった。留学生同士で仲良さげだった。

### Q2. 留学生とあなたの関係について

a. 生涯の友 94人中3人 (3%)

異文化理解の授業で発表を聞いたり、話したりした。同じ部で合宿も行って仲良くなれた。

b. とても親しくなれた 14人 (15%)

行事などで励まされた。登校時に会って一緒に通うことがあった。

c. 時々話をした 60人 (64%)

日本語を頑張っていて、ほとんど日本語で話せた。

最初はお互い言葉がわからなくて少し大変だった。部活で楽しく一緒に活動できた。

多くの英語で話しかけてしまった。正直もっと積極的に接するべきだった。

留学生の人達にとっては、日本語で話された方がよかったのかなと思った。

d. あまり話さなかった 13人 (14%)

e. 全く話さなかった 4人 (4%)

### Q3. 留学生と過ごして良かったと思う項目はどれですか（複数回答可）。具体的に書いてください。

a. 授業 94人中31人 (33%)

英語の授業、異文化理解の授業。(多数)

あまり一緒なのはなかったが、彼女の一生懸命な姿が輝いて見えた。

席が隣だったので色々な話をした。



オーストラリアについてとか楽しい話をいっぱいしてくれた。

**b. 学校行事** 41人 (44%)

体育祭、ホームルーム、文化祭。

日本の学校との違いが色々感じられ、びっくりしたこともあった。

ダンスコンクールは踊りを教えるのが大変だったけど楽しかった。(多数)

慣れない環境の中で日本語でコミュニケーションをとる機会が増えた。

**c. クラブ活動** 9人 (10%)

吹奏楽部に誘った。合宿で頑張っていた。合宿先で家の構造の違いについて話した。

みんなで山登りに行った。

**d. 外国語で会話ができた** 19人 (20%)

日本語があまり話せなかった頃はよく英語で話した。

はじめに少し、後半は日本語がすごくうまくなっていた。英会話能力がちょっと鍛えられた。

**e. 学校外での付き合い** 2人 (2%)

プリクラ。東京観光。

**※ 無回答** 22人 (23%)

◎ その他、上記項目以外で良かったと思うことがありましたら自由に書いてください。(人柄や生き方から学んだこと、考え方が変わったこと、相手国への理解が深まったこと、など) (回答数10)

ファッション、相手国への理解。日本まで来て頑張れる人はすごいと思った。

日本人と変わらない。

オーストラリアのことが知れたのも良かったけど、その文化で暮らしている人と接することができて良かった。

Q 4. 留学生と過ごした学校生活を振り返って、問題点や改善点があれば書いてください。(回答数29)

部活動はハードすぎた。授業以外で話す機会がない。遅刻など平気だった。

留学生同士がかたまっていた。学生ボランティアとか、お世話をする人がいるといい。

日本人生徒は、なるべく日本語で話しかけた方が良い。

授業のカリキュラムが別だから、昼休みや時々の授業でしか会う機会がない。

カリキュラムは一緒にした方が良い。

**C : 他学年の留学生と外国人生徒について**

Q 1. 他学年の留学生【Fさん(スウェーデン)、Tさん(香港)、Mさん(イタリア)、Fさん(スイス)】と交流しましたか。

a. した 94人中35人 (37%)

b. しなかった 54人 (57%)

※ 無回答 5人 (5%)

◎ aに○の場合、どんな場面で交流があったかを書いてください。

家庭科、異文化理解、書道などの授業。 硬式テニス部。

文化祭（ミュージカル、チャリティーバザー）。 体育祭の応援ダンス。

文化祭の有志で日本の歌など積極的に練習をしていてとても気持ちがよかった。

Q2. 他学年の外国人生徒【K・Iさん（1年中国）、S・Kさん（H13年卒中国）、Y・Kさん（H14卒タイ）】と交流しましたか。

a. した 94人中11人（12%）

b. しなかった 81人（86%）

※ 無回答 2人（2%）

◎ aに○の場合、どんな場面で交流があったかを書いてください。

体育祭。（多数） 異文化理解の授業。 学校行事。 部活動。

## 7. 外国人生徒（Y・O）自身の3年間の感想

生徒自身に3年間を振り返り、答えてもらったアンケートを紹介する。本校での3年間の生活を堪能したことが窺える。

## 8. まとめ

日本語能力及び学力共に非常に優れた生徒であったことは上述の通りである。成績は常にトップクラスを維持し、入学した時から希望していた日本の大学にも進路が決まった。外国人生徒でなくても申し分のない生徒であった。本来ならば、このような能力の高い生徒を3年間受け入れることができたことは非常に喜ばしいことであるが、外国人生徒枠で入学した生徒という観点で考えるとやや疑問が残る。

とりあえず、平成12年度生を入学させた理由となった、入試時点での在日就学年数がなかった生徒、1年1ヶ月であった生徒、2年11ヶ月であった生徒の3パターンを比較研究することはできたといえよう。しかし、各科目担当教官のコメントにもあった、「日本人とほとんど変わらない生徒を外国人生徒として入学させることは研究上あまり効果がない」「逆に中国語もできない生徒なので漢詩を読んでもらうこともできなかった」「一般生徒と比べても優秀であった（外国人という意識がなさすぎたのが問題かもしれない）」などを見ると、今後、どのような外国人生徒を入学させるかといったことを、委員会としてさらに検討していかなければならないということを強く感じた。

ちなみに、平成15年度はフィリピンからの外国人生徒を受け入れる。入試時点での在日就学年数は2年1ヶ月である。すでに日本語の取り出し授業を行うことは決定しており、教科・母語保持支援補講も行う予定である。外国人生徒用のカリキュラムを適用する必要があるかどうかは入学後の生徒の様子をみてから決定することになっている。これまで委員会が蓄積してきたノウハウを生かし、適切な日本語及び教科支援、また学校生活全般の支援ができるよう取り組んでいきたい。

（文責 海士部 伸子）



③ 日本語の習得では、どのようなことに困り、悩みましたか。

教育委員会から日本語の先生を派遣してもらって、日本語を教わっていた頃に見らるうちに語彙も増え、順調に日本語能力を伸ばしていたが、その期間が終ると、自分で聞いて覚えろという作業が続き、進歩が遅くなった。その際、自分に自信をなくしてしまったり、言葉遣いを誤ったり、笑って通されたこともあった。日本語の習得が高校入試のための勉強期間と重なった。校内テスト、公開模試、いつも国語の成績が悪くて私の下ではコンプレックスとなっていた。

④ 日本語の習得では、どのようなことを心がけたり、努力していましたか。

両親は日本語を勉強強いられたことがあり、音読の大切さを教えた。特に父親は「のごが父症をおこすまで音読しろ」と言われた。私は小心者で、自分で100%正確でなく、語句を絶対に出して言わないう傾向があり、そんな時でも間違っても、とどめを刺さず、いつまでも仲間にならなうとされた。それから日本語の語順は中国語と異なると、速く慣れるために中国語のテキストに載せていた文章を暗記した。

⑤ 日本語がわかるようになってきたと感じた時期があれば、それはいつ頃で、きっかけは何でしたか。(高校入学以前の場合は、その旨記入してください。)

日常会話レベル:

教育委員会から日本語の先生を派遣し、教えてもらったのは100時間、大体2ヶ月間くらいで、テキストは日常会話で構成されたもので、その期間が過ぎるとある周りの人の言っていることがわかるようになった。しかし、自分も同じくらいしゃべられるようになったのは、もう少しあとで、中2の前半くらいだと思ふ。

教科活動レベル:

中2になつてから国語の時間に朗読テストを実施し始め、何回も実施したあとに先生に読み方が日本人らしくなつて来たと言われた。国語、英語は基礎がよかつたので、大変ではなかったが、理科は苦しかった。中1の授業がほとんどわからず、今でも穴にないところがある。他の授業も教科目日本語では又又だったから、テストを要する科目なので、慣れるまで時間がかかった。

2. 一般の教科の授業について

① 一般の教科の学習では、どのようなことに困り、悩みましたか。

この学校は非常にレベルが高く、周りにいるのが化け物ばかりだと思つて、下、普段の勉強をどの程度までやろうかという基礎を教わることがでたら下で時間がかかった。その中でもノートを取るのが億年だ。最初日はむしろ先生が言っているようなことをノートにのみ込んでいたが、不意に要点を見失ってしまふ。効率よくない。基礎的なことからやり、先生の教書を重視することにした。

② 一般教科の先生に、特に配慮してあげられたことはありますか。それはどのようなことですか。

私の方からは特になが、先生の授業が始まると少し経つ頃、数学の時間は、先生に「普通にあって大丈夫でいい」と聞かされたことがあり、その時先生のほうで配慮してくれてくれたのだなと思つた。

先生の問いには「はい、大丈夫です。」と答えた。その後授業の時間では普通にあってくれるようになった。それから国語の時間で家族の人に聞いた競争体験を書かせたことがある。日本人と立場が逆なので書きづらくして先生に相談したところ、「大目に見ていいよ」と言われ、問題をクリアした。

③ 一般教科の先生に、特に配慮してあげられたことはありますか。それはどのようなことですか。

特にありません

④ テストについて、書いてある問題や、質問事項を理解できなかつたことがありますか。

1年生:  ある → (具体的に)

2年生:  ある → (具体的に)

3年生:  ある → (具体的に)

3. 大学院生による教科支援補講について

① 受講した科目名と補講時間数

1年生: 科目... 言語 週 2 時間  
 とても少ない やや少ない  よい やや多い とても多い →  満足 どちらでもない 不満

科目... \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 時間  
 とても少ない やや少ない ちようどよい やや多い とても多い → 満足 どちらでもない 不満

2年生: 科目... 言語 週 2 時間  
 とても少ない やや少ない  よい やや多い とても多い →  満足 どちらでもない 不満

科目... \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 時間  
 とても少ない やや少ない ちようどよい やや多い とても多い → 満足 どちらでもない 不満

3年生: 科目... \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 時間  
 とても少ない やや少ない ちようどよい やや多い とても多い → 満足 どちらでもない 不満

科目... \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 時間  
 とても少ない やや少ない ちようどよい やや多い とても多い → 満足 どちらでもない 不満

~その他意見~

「言語」と書いたのは日本語と中国語の両方を見て頂... 母国語を  
 忘れられた... ない... ない... ない... ない... ない... ない... ない... ない...  
 とてもよか、と思う、

② 補講内容の難易度

1年生: 科目... 日本語  
 とても簡単 やや簡単  よい やや難しい とても難しい →  満足 どちらでもない 不満

科目... 中国語

とても簡単 やや簡単  よい やや難しい とても難しい →  満足 どちらでもない 不満

2年生: 科目... 日本語

とても簡単 やや簡単  よい やや難しい とても難しい →  満足 どちらでもない 不満

科目... 中国語

とても簡単 やや簡単  よい やや難しい とても難しい →  満足 どちらでもない 不満

3年生: 科目... \_\_\_\_\_

とても簡単 やや簡単 ちようどよい やや難しい とても難しい → 満足 どちらでもない 不満

科目... \_\_\_\_\_

とても簡単 やや簡単 ちようどよい やや難しい とても難しい → 満足 どちらでもない 不満

~その他意見~

③ 補講の進度

1年生: 科目... 日本語

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い →  満足 どちらでもない 不満

科目... 中国語

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い →  満足 どちらでもない 不満

2年生: 科目... 日本語

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い →  満足 どちらでもない 不満

科目... 中国語

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い →  満足 どちらでもない 不満

3年生: 科目... \_\_\_\_\_

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い → 満足 どちらでもない 不満

科目... \_\_\_\_\_

とても遅い やや遅い ちようどよい やや早い とても早い → 満足 どちらでもない 不満

~その他意見~

進度では問題はないのだが、バランスで言うと、2年生のときは日:中 = 3:1  
 になって、1年生が 2:2の方がよか、たかと思、た

④ 使用したテキスト

1年生: 科目... \_\_\_\_\_

テキスト名: 「 \_\_\_\_\_ 」 出版社: ( \_\_\_\_\_ )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

⑥ 疑問が生じたときの質問

- 1年生: 疑問が生じたとき、全然しなかった → 疑問 どちらでもない 不満  
 2年生: 疑問が生じたとき、全然しなかった → 疑問 どちらでもない 不満  
 3年生: 疑問が生じたとき、全然しなかった → 満足 どちらでもない 不満  
 ~その他意見~

せ、かくごんはに...機会を与えてくれたので、今まで日本語の勉強で生じた疑問  
 (主に自動詞、他動詞の区別) や日本人の生活習慣 (音程など) について  
 質問させて頂いて

4. 進路について

- ① 最終的な進路の決定は、いつ頃、誰と相談して行いましたか。また、なぜその進路を選んだのですか。

法学部に進んでコンカレント的な仕事をしたというのは小4のころから自分で決めていた。父親がそう言う仕事に携わっていて、なんとなく影響され下部分があると思う。それから、今...パースで経済を発展している中国は、各国の会社が投資先として狙われやすい。もちろん、法律トラブルも絶えないと思う。中国の新しいな可能性を開くために私も私は法学部で企業法務コースのある大学に進むことを選択した。

⑤ 講師の話す内容の理解 (講師氏名と科目を記入し、それぞれ答えてください。)

講師氏名 (科目)	よくできた	だいたいできた	ときどきできた	ほとんどできなかった
1年生	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
3年生	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった
( )	よくできた	だいたいできた	ときどきできなかった	ほとんどできなかった

~その他意見~

授業が面白く、先生と個人的なメールのやり取りも続いていたので、先生の名前が覚えているが、先生の話には内容が大体理解できた。

科目... ( )  
 テキスト名: 「 ( ) 」 出版社: ( )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

2年生: 科目... ( ) 出版社: ( )  
 テキスト名: 「 ( ) 」 出版社: ( )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

科目... ( )  
 テキスト名: 「 ( ) 」 出版社: ( )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

3年生: 科目... ( ) 出版社: ( )  
 テキスト名: 「 ( ) 」 出版社: ( )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

科目... ( )  
 テキスト名: 「 ( ) 」 出版社: ( )

とてもよい まあよい 普通 あまりよくない よくない

~その他意見~

使用したテキストはなく、新聞 (朝日新聞、人見日報) 雑誌の切り取りを  
 周りに。

- ② 進路決定で、不満に思っていることがありますか。それはどのようなことですか。

私は父の手というところで、弁護士になるのはハードなものでないか、ということも両親から再三に言われた。両親はどちらかというと私に文学部や社会学部に進んで大学の教師になりたい、私に弁護士であって、大学の非常勤講師を稼げることを望むと、両親を説得した。私の計画としては、弁護士という職業を主にして、その他に中国の大学で日本語を教えたり、日本で声の仕事もしてみたいと思う。

③ 進路に関する情報収集は、どのようにして行ったか、できるだけ詳しく書いてください。

塾で定期的に面談が行われ、第一志望、第二志望はすぐ決めることが下された。浪人をするつもりはなかつたので、両方とも落ちた場合も秀文で他の大学を探す。学部は法学部で、企業法のコースがあるところ、そして中国で弁護士の免許をとることを考慮に入れて、中国国内でもある程度知られていることが条件となった。両親と相談して第三志望から学校を決めた。偏差値を見るとまじり三大学備校のホームページを利用した。

④ 外国人生徒であることが、進路選択に何か支障をきたしましたが、特になか、た。どちらかというと、外国人生徒であることそあまりにも気にして、なく、両親や学校の先生に「志望校が高い」と言われた。

5. 国際理解科目について  
① 外国人生徒は、国際理解科目が必修となっていますが、この履修システムについてどう思いますか。

私はこの国際理解(異文化理解)の授業で、よく外国人に興味を持つ友達に出逢うことができた。日本人の内面的なイメージを覆した。それから留学生と交流できるような場を提供してくれたのがよいと思う。留学生は2年の各クラスに1名だが、自分達の勉強もあり、なかなか合わないし、合っても話さない。この授業を利用していろいろなと話しが下される。私は、私が思っているのは、2年のうちに1年を必修にして、もう1年を選択にしてもよいと思う。せっかくにも面白そうなので授業がたく工ん設けられているから

② 授業の中で、外国人生徒という立場が、どのように活かされましたか。

高1のとき、香港から来た。人がいて、私は北京。中国の大陸の方、しかも大陸の北方の出身という立場で異文化理解の授業に参加して頂いた。授業のときは、人と一緒に中国について紹介した。私も一回香港に旅行に行、たことがあるが、観光だけではない。その地域の本当の姿が見えて来た。なあ、と思、た。高2のとき、中国から来た留学生は少なく、私は中国から来た人という立場で授業に参加して頂いた。中国の国語は広く、私が知、ているのは本当に少、した。偏りがあるかもしれないが頑張、てみた。

③ 履修システムや授業内容など、国際理解科目全般について、改善した方がよいと思われる点があれば書いてください。

履修システムは問題がないと思う。授業内容の方は、一年と二年が重なり、という部分があると思う。留学生の出身国が違うから、ある程度同じでもい、かたがたがな、と思うが、2時間続、きたら、最後まで盛り上がり、たまま終、るで、まじりようになりキレムが、よ、いと思、う。離、れないと思、うが、最初にはオリエンテーションの時間を設、けて、参加者にどう、いうことをやりたいか、喜、び、て、もら、う、て、それ、で、レポートの発表を、入、れて、一、年、間、の、討、話、表、を、作、り、皆、に、配、り、各、国、出、身、の、人、に、授、業、の、前、あ、る、程、度、準、備、し、て、も、う、一、方、が、効、率、が、上、が、る、と、思、う。

6. その他

① 教科活動全般について、何か意見があれば書いてください。(学校の対応や改善した方がよいと思われる点など)

あくまでも自由を貫くこの学校の雰囲気とても好きだが、生徒と先生方の接点は今ひとつ少ないような気がする。先生が何を言、ても聞、かない、聞、かない、それを個性が強い、の、一、言、で、片、付、け、る、と、そ、れ、で、終、わ、り、な、ら、な、い、が、個性を、通、り、越、し、て、た、だ、の、反、抗、期、を、助、長、す、る、も、の、と、な、り、て、い、な、い、た、ら、う、が、もう少し厳、しく、し、て、も、よ、い、と、思、う。





② 取り出しによる日本語の授業や他学年の授業の受講により、友人関係にどのような変化がありましたか。

私は週1回放課後に大学院の授業を受けていた下、友人関係には何の影響もありません。逆に授業が始まる時間まで教室にいらして友達とおしゃべりをして、友達を増やすことができました。

③ 友人との関係で困ったこと、悩んだことはありましたか。あればどのようなことで、どのようにして解決したか書いてください。

私が一番気にしていたのは国籍の違いだ。でも周りの友達が全然そういうのを気にする余裕はなく、一緒にいるうちに自分でも気にする事もなくならした。

### <全体について>

① 本校に、外国人生徒入試制度によって入学したことをどう思いますか。

外国人生徒入試制度により、入学し、異文化理解の授業に参加できて、国際文化に興味を持ち、友達にたくさん出会うことができました。そういう友達と交流する場を得られて本当に良かったです。この制度は異文化理解を促進させるために設けられたものであると言われ、私は自分でも限界の事をしようと思、たのだが、うまくできませんが、大部分もあ、ら、らと思。この経験を生かしていきたいと思。

② 本校で過ごした3年間で、印象に残っていることは何ですか。

- ・ 良い印象
- ・ 先生、生徒共に切り替えが速く、頭が柔軟である
- ・ 生徒の方は自分の目標をしっかりと持ち、そのための努力を惜しまない
- ・ 生徒は皆、何があっても自分に自信を持ち、頑張っている

・ 良くない印象

・ 個性が強すぎる人がいて、なかなかうまくいかない

・ 先生と生徒がそれぞれ思うようにしている。両側の接点が少ない

③ 3年間を総合的に振り返り、本校での生活はどうであったか、率直な感想を書いてください。

入学当初、私はとても不安だった。日本に来て3年間が経ち、今私はこの学校の勉強についていくことができないのか、この学校の生活に慣れることができないのか、いろいろ考えたら最初の頃、登校するとやはりいつも緊張していた。それから、私は最も気にすることがある。それは私の国籍である。中学のとき、国籍が違っていたことがあった。それは私がいたので、私はそれがいいやだ、と。この学校には心広い、やさしい子がたくさんいて、「全然気にしないでいいよ」と言ってくれているので、そういう友達を探そうと私は自分の国籍の違いを気にしなくなった。それだけでなく、今度仲の良い友達も北京に遊びに行くときに、私の家に招待する約束をした。

この3年間で振り返ると、私は大きく成長したと思う。先に述べた自分のコンプレックスを一つ乗り越えたという部分、そして私はこの学校に入り、この学校の校風である自主、自律が身にしみ、甘えんぼだった自分を卒業して新しい自分に出会うことができた。この学校の皆は何でも自分の思、たことを口に出したがるが、私はそういうところがとても気楽でよ、と思、い、同じように少しづつ自分の意見が言えるようになって、それから、この3年間で私はかけがえのない友人に出会うことができた。何でも言いあえて、受験というつらい時期も応援しあ、て何とか乗り越えられたことができた。卒業してからも生きてい、ま、ま、と思、う。

私はこの学校に入学できて本当に幸運だったと思、う。そして私にこの機会を与えてくれた先生方に心の底から感謝したいと思、う。

ご協力ありがとうございました。